

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年3月9日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子、品田亮太		
<p>検証テーマ：岩手県三陸の交通復興、大阪でダブル選挙へ、北朝鮮の動き、米中貿易摩擦 アメリカのサッカー女子代表チームの選手がサッカー連盟を性差別で提訴 ・【特集】汚染土と復興～苦悩の現場～</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県佐渡沖で高速船がクジラと衝突か ・和牛受精卵密輸で運んだ男らを2人逮捕 ・仮想通貨換金業者「FORBES」が2億円の所得隠し ・岐阜市の特別養護老人ホーム元職員が95歳女性入所者を殴った疑いで逮捕 ・岩手県三陸の交通復興 ・大阪でダブル選挙へ ・北朝鮮の動き ・米中貿易摩擦 ・アメリカのサッカー女子代表チームの選手がサッカー連盟を性差別で提訴 ・群馬県でいじめ自殺 ・東京渋谷区の無許可パーで乾燥大麻所持の疑いで男女8人を逮捕 ・谷村新司さんが女性の更生保護施設を訪問 ・【特集】汚染土と復興～苦悩の現場～ ・ 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県三陸の交通復興：結論→特に問題なし 東日本大震災から八年となるのを前に岩手沿岸部を南北に走る自動車道と内陸と沿岸を結ぶ自動車道が繋がったこと、開通式典が行われてテープカットで開通を祝い安倍総理は復興が一層推進するよう政府が一丸となって取り組みたいと話したとのこと、このあと安倍総理は今年23日に被災後初めて全線が開通する三陸鉄道リアス線に自ら試乗するなどして被災地の復興の状況を確認したとことが伝えられた。 また、安倍総理の「今後も、現場主義を徹底しながら被災地の声に耳を傾け、皆さんの声を復興につなげていきたい」というコメントが取り上げられていた。 このトピックに当てられた時間は86秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・大阪でダブル選挙へ：結論→特に問題なし 大阪都構想の住民投票をめぐるおととい各党の意見がまとまらなかったため松井知事と吉村市長はともに辞職願を提出し松井氏が市長選に吉村氏が知事選に立候補するダブル選に望むことを表明したこと、これを受けて自民党の大阪府連はダブル選の対立候補を数日中にも決定したい意向を明らかにしたとことが報じられた。 自民党の左藤章大阪府連会長の「自公中心だけでなく、各、色んな人達が応援できるたまを、候補者を探せ 		

たらな、と。不戦敗はありえません。」というコメントが取り上げられたほか、公明党は自民の対立候補が決まった上で支援するかどうか検討するとしていること、立憲民主党もみんなの候補者を擁立したいと対立候補への協力を示唆していて来月 7 日のダブル選に向け各党の動きが活発化しているとのことが報じられた。

このトピックに当てられた時間は 70 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・北朝鮮の動き：結論→特に問題なし

アメリカの北朝鮮分析サイト 38 ノースは北朝鮮北西部の中国との国境付近で石炭輸送のインフラ整備が進んでいると分析したこと、石炭の輸出は制裁違反に当たること、一方で、アメリカの公共ラジオは平壤近郊の施設で先月 22 日に車両が停まっている様子やクレーンなどが確認されミサイルまたは人工衛星の打ち上げ準備の動きが見られると報じたとのことが報じられた。

このトピックに当てられた時間は 65 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・米中貿易摩擦：結論→特に問題なし

中国の王受文商務次官は国会に相当する全人代に合わせて行われた会見で、アメリカとの貿易協議について「両国首脳は既に重要な共通認識を達成し、すべての追加関税を撤廃するという原則と方向を定めた。」と述べた上で両国間の貿易を再び通常の軌道に戻すべきだと強調した一方で、協議は双方向・公平・平等でなければならないとも述べ、アメリカ側を牽制したとのこと、貿易協議を巡ってはアメリカのクドロー国家経済会議委員長がブルームバーグ通信に対し米中首脳会談の開催について 3 月下旬という報道は広い意味であっているが確定していない 4 月にずれ込む可能性がある、と述べているとのことが報じられた。

このトピックに当てられた時間は 68 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・アメリカのサッカー女子代表チームの選手がサッカー連盟を性差別で提訴：結論→特に問題なし

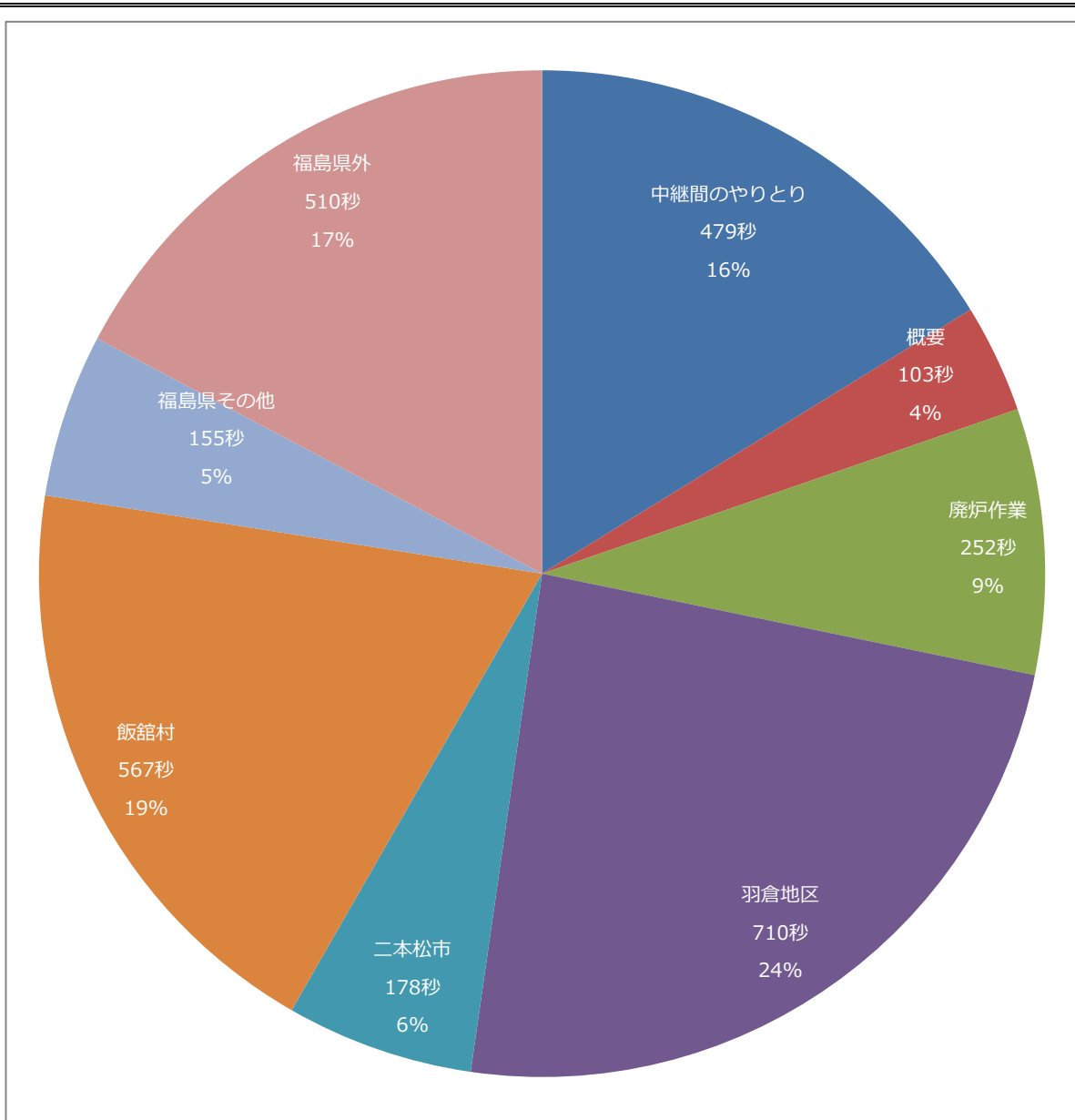
アメリカのサッカー女子代表の選手たちが国際女性デーに当たる 8 日にアメリカのサッカー連盟に対し性差別の解消などを求める訴えをロサンゼルスで裁判所に起こしましたこと、訴状によるとアメリカの女子代表チームは前回のワールドカップで優勝するなど男子の代表チームよりも好成績なのにもかかわらず、男子チームよりも報酬が低いのはサッカー連盟による性差別に当たるとして平等な報酬の支払いや競技環境の改善を求めているとのことが報じられた。

また、ワールドカップのボーナス額で比較すると 2014 年にベスト 16 だった男子チームはおおよそ 6 億円でその翌年に優勝した女子チームはおおよそ 2 億円だったということもあわせて伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 63 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】汚染土と復興～苦悩の現場～：結論→放送法第四条一項四号に照らして高評価

東京電力の福島第一原発の廃炉についてと、汚染土の再利用について特集されていた。このトピックに当てられた時間は 2940 秒で、それぞれの焦点とその時間配分及び比率は以下の通りであった。



気仙沼市と飯舘村の中継間のやり取り、および VTR では以下に朱記したものが取り上げられていた。

【オープニング】

膳場「こんばんは、3月9日土曜日、報道特集です。今日は宮城県気仙沼市から中継でお伝えします。東日本大震災からまもなく8年経ちます。えー気仙沼の市街を歩いて見ますと、ようやくかさ上げされた土地に、これから新しい施設を建設するなど、復興のスタート地点にいまようやく立てたという人たちも少なくないことにはっとさせられます。」

金平「えー東日本大震災と福島第一原発の事故が起きてからの歳月の長さを考えましても、この出来事が風化した過去のものだと、取材を続けている限り、全く思えません。今年もこの出来事の それからを総力取材でお伝えします。」

膳場「そして、福島県の飯舘村には、日下部キャスターが行っています。日下部さん」

日下部「はい、飯舘村にあるですね、汚染土の仮置き場です。もともとは田んぼだったところですけども、仮置き場と言いながら8年経った今もですね、これだけ多くのですねプレコンバッグが詰め込まれて、積み上げられています。そしてグリーンシートがはがされているところ、あそこが近く搬出が始まるということなんですね。」

この飯館村だけで、除染などによって発生した汚染土、がれきなどはですねプレコンバッグにして、250万という途方もない量です。これだけ大量の汚染土をどう処理していくのか。後ほどまたお伝えします。」

【導入】

膳場「気仙沼は日が落ちて、海から冷たい風が吹いてきました。さて福島第一原発の事故後、除染作業で放射性物質を含んだ大量の土、いわゆる汚染土が大量に発生しました。この汚染土を全国の公共工事で再生利用する考えを環境省が示し、各地で住民が困惑しています。」

金平「震災発生から間もなく8年。その汚染土を生み出すきっかけとなった福島第一原発は今一体どうなっているのでしょうか？」

【シーン1：東京電力】

ナレ「事故からまもなく8年迎える東京電力福島第一原発」

金平「だいたい今、」

ナレ「現在は、1日4200人が廃炉作業にあたっている。除染が進み、構内の96%で防護服を着なくても作業できるようになった。」

金平「2号機と3号機間の通路に来ています。あの去年はバスの中で、ここを取材した記憶がありますが、バスの中でもかなり高い数値を記録しました。今、こう言う風に鉄板が張られて、」

ナレ「だが、線量は依然として高いままだ。防護服に着替え、当時原子炉を制御していた、3、4号機の中央制御室に向かった。」

金平「いわーこれ、びっくりだな。僕初めて見たんで。この3号機のコントロールルーム。これ、事故当時のままですか？」

東電担当者「まあすこし片付いたところもありますね。」

ナレ「ここは、8年前、事故対応の最前線だった。十数人の職員が、原子炉の緊急停止や、水位の確認に追われた。」

金平「えーこれが、原子炉ですね。これ。」

東電担当者「緑なら閉じて、赤なら開いている。といったところです。」

ナレ「原子炉への注水などは、別の場所で管理していて、ここは今、使われていない。廃炉作業は、一進一退を繰り返している。屋上にカバーが付いた3号機では、去年秋に使用済み燃料プールから、核燃料の取り出しが始まる予定だった。しかしトラブルが相次ぎ、まだ始まっていない。」

ナレ「カバーの中へと入る」

金平「えー3号機のオペレーションフロアに来てますけど、だいたい地上30メートルくらいあります。」

東電担当者「柵があったんですけど、今、柵がないんで、落ちちゃうんですね。」

ナレ「ここは、燃料プールの真上にあたる。燃料の取り出しに向け、転落防止用の柵やネットが外されていて、プールには近づけない。3号機には今も566台の燃料棒が取り出し作業にあたる来月にも始まる見込みだ。」

ナレ「廃炉作業で最も困難なのが、溶け落ちた核燃料、デブリの回収だ。」

金平「えー、2号機ですね。2月の13日にロボットを使って調査をやったという。」

ナレ「2号機では、ロボットでデブリに触るという初めての調査が行われた。デブリとみられる小石状の堆積物を持ち上げることができたが、取り出す方法の検討はこれからだ。」

ナレ「原発事故の影響は計り知れない。東北から関東にかけて広く放射性物質が拡散した。福島県内だけで、除染によって出た汚染土はおよそ1400万立法メートル。東京ドーム11個分もの膨大な量になるとみられる。各自治体で仮置きされ、2021年度までにすべて福島第一原発近くの間接貯蔵施設に運び込まれることになっ

ているのだが・・・」

【シーン2：羽倉地区】

ナレ「事故から8年、汚染土の現実を追った。」

(CM)

ナレ「先月、3日、福島県南相馬市で、緊急の住民集会が開かれた。議題は福島第一原発事故の後、除染によって出た汚染土の再生利用計画だ。」

膳場「どうお感じになりましたか？」

住民「絶対ダメです。とんでもない話だ。」

ナレ「南相馬市、小高区の羽倉地域を通る、常磐自動車道に汚染土を使うというものだ。」

"羽倉行政区 相良繁廣区長「孫、ひ孫の代まで我々を苦しられるわけですよ。そんではいかんとなって、」
「最終的には、羽倉で突破口を開いて、安全性を確かめたよーってなったならば、だっーと流れていくと思う。」
"

"ナレ「降って湧いた計画は、環境省の強い意向によるものだった。」

膳場「除染した土の再利用計画の現場がこちら、常磐自動車道です。町の中心部からは離れていまして、周りがかつては農地だったと思われる土地が広がっています。この道路を4車線化する工事で、除染した汚染土をこの盛り土の一部として使おうという計画です。」

ナレ「環境省の計画では、南相馬市内のこの仮置き場に保管されている汚染土、およそ1000袋を、拡幅工事の盛り土として、使う。その表面を汚染されていない土で覆う予定だ。」

羽倉住民「いやーなぜ羽倉なのかと。うん。大熊まで持っていったらよい。いや東京のど真ん中でもいいな。道路をかさ上げしてで実験してみたらいい。皆さんどう思うか。」

ナレ「住民集会では、全員一致で計画に反対することが決まった。」

ナレ「汚染土の再生利用は、3年前、環境省が打ち出したものだ。汚染土の総量を減らすためだという。使われるのは、放射性物質の濃度が1キロあたり8000ベクレル以下の汚染土。道路や防潮堤などの公共工事で、再生利用を目指している。今回、候補に挙げられた羽倉地域にある南相馬市、小高区。2年半前、ほぼ全域で避難指示が解除されたが、震災前の2割に当たるおよそ3000人しか、帰っていない。」

膳場「ここで受け入れてしまったら、羽倉地域に羽倉地区にとってどういった事になりますかね。未来にとって」
相良氏「あのプラスちゅうことは全然見えないですね。若い人たちは戻ってこない。子供は育たない。そしてまだこの作物事業もできない。」

ナレ「南相馬市で汚染土の再生利用に反対する渡辺寛一市議に前市長の桜井氏から電話があったのは、去年10月ことだった。」

渡辺市議「再生利用するのをダメなんて言うことを、言うべきじゃないと。」

ナレ「桜井前市長は、震災直後に、物資が届かない現状を、インターネットで世界に訴えた。その後、脱原発を掲げ、復興に取り組んできたが、去年、一月、市長選には落選した。電話のわけは・・・」

渡辺市議「常磐道の小高インターチェンジができる方向で今、かなり前向きに動きが始まって、現実的になってきたと。そのインターチェンジを作る予算は、環境省で出すことに決まっているんだと、」

ナレ「これまで、南相馬氏は、国土交通省に対して、小高区にインターチェンジを設置することを要望してきた。だが、採算性などの観点から、実現に至っていない。桜井前市長と同じ党派だった市議に話を聞くと・・・」

渡辺一夫南相馬市議「どうも、小高のインターチェンジを作る代わりに実証実験がね、なんかそこにぶら下がってきているんだなということを私たちが認識をしてっていう。南相馬市民からすれば、小高のインターチェンジ

はバーターで作り上げていくもんだ一なんてのは最初、思ってもいなかったと思いますよ。」

ナレ「報道特集は、複数の市議から、話を聞いた。」

南相馬市議 A 氏（吹替）「桜井さんが市長をやめるとき、再生利用を受け入れないと、小高 IC ができないことになっていると、直接言われたんです。本当に驚きました。」

南相馬市議 B 氏（吹替）「いわば、アメやニンジンぶら下げられた状態ですよ。国に対しては、卑怯だと言いたい。」

ナレ「小高インターチェンジの実現は汚染土再生利用の受け入れを条件としたものなのか。桜井勝延前市長が私たちのインタビューに応じた」

膳場「桜井さんはあの事業については、どう、お考えですか？」

桜井前市長「私はやむを得ず、やるべきだと思っていますね。」

膳場「どういったメリットが」

桜井前市長「一番は、仮置き場が徐々になくなっていくわけですよ。そのことによって農業の復旧が進むわけですよ。」

ナレ「当初、汚染土は、3年から5年で、撤去される予定だった。だが、中間貯蔵施設への搬入が遅れ、今なお、大量に積み上げられている。インタビューには、小高区の住民も同席した。こう訴える。」

住民「まだ仮置き場にプレコンバッグがいっぱいあって、再生できなくて、そのままでは農業再生なんかできないよと。」

ナレ「桜井前市長は私たちを南相馬市の防災林へと案内した。津波で出た災害がれきが積まれている場所だ。」

桜井前市長「災害がれきは当然、放射性物質があったわけだけど、それでも当時の3000ベクレル以下のやつは入れてきた。今までのいきさつでも、防災林の下にがれきなんかを入れてきてるわけだから、コンクリート廃材とか、アスファルト廃材とかを利用しているのに、なぜその土はできないですかという。」

ナレ「桜井前市長は、おとし、インターチェンジの設置について、国交省と交渉した。」

桜井前市長「おおよそ60億弱かかるんですよ。で、国交省としては、そんな予算がないと。」

ナレ「そこで、国交省から提案されたのが、環境省の予算を使う案だったという。」

桜井前市長「道路局長から、あれは環境省の中間貯蔵への除染土の運び込みの予算で作っているから、環境省と話してもらえれば、小高の問題も、進むでしょうっていう話で」

ナレ「インターチェンジができれば、中間貯蔵施設への汚染土の運び込みが早くなり、環境省にとってもメリットがある。南相馬市では、おとし、すでに環境省による汚染土を使った盛り土の実験が始まっていた。」

桜井前市長「まあわれわれがやってんです。その実証実験を含めればですけども、小高でそういうキーワードを使えば、予算としては、十分確保できるんじゃないかと。」

膳場「そういうキーワードっていうのは、小高にとってのキーワードってなんですか？」

桜井前市長「我々がやっている除染土の再利用、やっている、実証実験やっているわけじゃないですか？」

ナレ「国交省からの提案をもとに、環境省の担当局長らと、面会したという。」

桜井前市長「そこは、協力していきましょうというまあ前向きな回答だったと思いますよ。当時。」

膳場「環境省とのこの交渉の中で、えー、除染土の再生利用ってことをこう、持ち出したことは結果的に小高 IC を進めるうえでプラスに働いたっていう実感はありますか？」

桜井前市長「あります。うん。それは。環境省としても、再生利用でことも、できるんであれば進めたいという立場だったと思いますから。」

ナレ「悩みぬいた末の選択だった。この人たちの生活をやっぱり一刻も早く、まあどんなかたちでも保証して、

自らの生活を再建できるようにしていくっていう、なかでは、こういうことも、まあ悔しいけれども、手段としては、我々は、取らざるを得ないっていう。思いでやってきているっていうことは理解していただきたいなおもいますね。」

ナレ「環境省は、取材に対し、南相馬市からの要望を踏まえて、当時の桜井市長と、小高スマートインターチェンジを含め、高速道路での、除去土壌の再生利用について、意見交換をしたことは事実ですが、結論は出ていません。と回答した。」

ナレ「一方で、常磐道の拡幅工事における再生利用計画については、桜井前市長と、具体的に相談した事実はないとしている。」

ナレ「また、国交省は、当時の道路局長との間で、桜井前市長と話したような、除去土壌に関わるやり取りは行われていません。と口頭で回答した。」

【シーン3：二本松市】

ナレ「実は、汚染土の再生利用計画は、去年、福島県二本松市で、とん挫している。」

膳場「周りは、森林に囲まれた農地、そして民家が点在しているような場所です。計画ではこちらの道、二本松市市道なんですけど、この農道の200メートルにわたって、除染度を埋めていこうということでした。」

ナレ「予定地は、田んぼの脇にある農道。この先は行き止まりだ。すぐそばを湧水が流れる。」

"膳場「使われます？この道。」

近くに住む人「道なんか使わねーな。ただ農作業のときにトラクターが」

ナレ「計画では、近くの仮置き場にある汚染土500袋を使う予定だった。仮置き場が早く無くなるならと、計画に賛成した住民もいたという。一方で。」

大橋さらさん「絶対に、あの辞めてもらいたいというか、反対しなければいけないなという思いでした。」

ナレ「近くに住む主婦、大橋さらさん。娘の直さんを神奈川に自主避難させている。再生利用計画を知ると、すぐインターネットの署名募集サイトで、反対を呼び掛けた。」

大橋さん「将来子供を産んで、孫ができたときに、おばあちゃん家には、放射能があるから、来ないほうが良いよとは言いたくないんですよ。」

ナレ「汚染土は当初の約束通り、中間貯蔵施設へ運ぶべきだと考えている。去年5月の環境省による住民時説明会でも、反対の声が相次ぎ、東京で再生利用すればいいとの声も上がった。」

住民「オリンピックの工事やってるでしょ。その下敷きにはできないんですか？」

環境省の担当者「福島で、今どここの町で出たものを東京にもって行ってということにしても、やはりなかなかそこも皆さんと同じように気持ちとして難しいかなと思います。」

ナレ「結局、電子署名は全国から2700人以上集まり、環境省は、去年6月、計画を中止した。」

大橋さん「汚染された土を埋めるというのは、故郷を汚すことになるので、それは人が通る通らないということではなく、それはしてはいけないというふうに思います。」

【シーン4：中継】

膳場「桜井前市長の取材の中で非常に印象に残ったのは、汚染土の再利用を受け入れようと考えたのは、やむにやまない南相馬ならではの、事情があったからで、一律に他の地域で同じことをしてはいけないと話していたことです。まあつまり南相馬が汚染土の再利用に踏み切ったとしても、それを他の自治体でも同様にするための布石にするのは、間違いだということなんですね。」

金平「それにしてもね、あの住民説明会での、そのオリンピック工事のしたにですね、汚染土を敷き詰めたらどうかという住民の訴えにはですね、非常に強烈なものを感じましたね。」

膳場「そうでしたね。そして南相馬の汚染土の再生利用計画を巡っては、おとといの夜、環境省が初めて、地域の区長およそ10人を集めて説明会を行いました。その中では賛成する意見は無く、反対の声が相次いだということで、環境省は現状のままでは、計画を進めるのは難しいとしています。環境省の掲げる汚染土の再生利用については、各地域の実情にあった議論、しかもオープンな議論が不可欠です。」

膳場「さて続いては、福島県の飯舘村から日下部キャスターです。日下部さん飯舘村は汚染土を使った再生事業を、受け入れているんですね。」

日下部「はい、飯舘村でただ一つ残っている帰還困難区域である長瀨地区ではですね、この村内で発生した低レベルの汚染土を使ったですね、農業を主体とした再生事業がすでに始まっています。苦渋の選択をした長瀨地区の現状を取材しました。」

【シーン5：長泥行政区】

ナレ「去年、4月、普段立ち入ることのできない神社に人々が集まった。」

ナレ「福島県飯舘村の長泥行政区。福島第一原発から30キロ以上離れているが、空間放射線量が高いとして、避難指示が解除されていない。村で唯一の帰還困難区域だ。例大祭のこの日、短い時間の帰還が、許された。おりしも長泥の未来を左右する決定が、あったばかりだった。」

環境省の担当者「これ土曜日の新聞の記事何ですけども、飯舘の復興拠点、これ長泥ですね、長泥の復興拠点認定と、いうことで、」

ナレ「長泥地区は、それまでの間、除染がほとんど手付かずだった。特定復興再生拠点に認定されたことで、国の費用で、除染やインフラ整備が進められることになった。」

ナレ「ただ、復興拠点の整備案には、汚染土の再生利用が盛り込まれた。再生利用を受け入れなければ、広い範囲で除染を行うことができなかつたのだ。住民にとって、苦渋の決断だった。」

ナレ「秋になり、復興拠点の整備に向けた工事が本格化していた。」

日下部「えー静かだった長泥地区にですね、ほんとに久しぶりに槌音が響いています。えーこの辺りがですね、実験的に行われる再生事業の拠点となる場所で、ここに運び込まれてきた汚染された土などを、仕分けするプラントができる予定です。」

ナレ「ここでは、放射性物質の濃度が、5000ベクレル以下の汚染土を使う計画だ。およそ50cmの新しい土で覆い、農地にする。そこで観賞用の花などを試験栽培するという。」

ナレ「一方で、こんな光景も広がる。再生利用のために、飯舘村の他の地区から、およそ3万4000袋の汚染土が新たに運び込まれたのだ。」

庄司正彦さん「外国のどっかごみ捨て場なんかにきたような感じに思うよ。本当に大丈夫なのかという不信感というか本当に安全なものだけなのかなって言うのがやっぱり、拭い去れないっていうか」

ナレ「去年、10月、長泥の住民に対し、説明会が開かれた。再生利用計画を進めてきた村長は。」

菅野村長「もう皆さんお分かりのように、二本松はダメになっています。本当に長泥の皆さん方は、すごいな、よく決心して来たなというように思っています。」

ナレ「環境省の担当者は、こう強調した。」

環境省の担当者「これからまさしく世界初の事業として進めていくということでいかに皆様の、にとって、価値のあるものにしていけるのか、いうところをきちんとやっていきたいと思っておりますので・・・」

ナレ「住民からは、憤りの声も上がった。計画を受け入れたにもかかわらず、長泥地区の全域が除染されるわけではないからだ。」

住民「飯舘村で、1700個あまり、当座あると思うんですが、その中で15、6軒だけ除染もできねえ、土地

の解体も出来ねえっていうの、これ国のやり方とか、おたくのやり方なんですか？」

ナレ「説明会の後には、年に一度の懇親会が開かれた。」

"日下部「おいつつですか？ 5歳。じゃこの子も？」

女性「この子は震災後に生まれたんです。」

"

日下部「長泥をね、知らないね、子供たちが増えているわけですけど、いかがですか？」

女性「自分たちはもう生活に追われちゃっているから、こんなふうに考えたことないんですけどね、子供たちが今住んでいるところが故郷に見たいな感じになっちゃうんじゃないですか。」

ナレ「久しぶりの再会に笑顔がこぼれるが、胸中は複雑だ。」

"女性「夢ならいいなあーということがあんだけど、夢じゃなくてげんじつだから、それを受け止めて、」

日下部「やっぱり長泥は大切な場所でしょ？」

女性「行くと、いろんなこの思い出がこのいっぱいあるのね、だからあの、もう二度とないなあって感じで、いうけど、」"

男性「長泥は再生事業でやることによってうめたてて、これに関してお金をもらって利益を上げているでしょっていわれる。それは嘘ですよ。ただ、ただ除染してもらいたくて。解体してもらいたくて、長泥住民が選択した最後の砦です。」

ナレ「長泥の避難指示解除は今から4年後、2023年春ごろと計画されている。」

ナレ「先月、シゲハラ良友区長に、長泥を訪ねた。この場所には、避難指示の解除を見据えて、村営住宅の建設が予定されていたが、申し込んだのは、しげ原区長一人だったという。」

区長「8棟くらい住宅がたてるよと計画して、国に申請した。まあ1か月2ヶ月前から、住宅はちょっと難しいよと今言われています。俺一人だけが、申し込みでは、建てられないっていうのが、これからどうなるか、私たちは、としては計画と違うと」

ナレ「長泥では、避難指示の解除後、180人が故郷に戻ることを目標にしている。だが、震災から8年が経ち、すでに避難先で、新たな生活を始めている人がほとんどだ。」

日下部「えーこの土地一帯にですね集められて来た汚染土が埋め立てられる予定です。そしてこちらのビニールハウスですけども、もうすでにですね、汚染土を使った観葉植物を中心とした栽培実験、これが始まっているんですね。」

ナレ「汚染土の再生利用を受け入れたことは正しかったのか。今なお苦悩は続く。」

シゲハラ氏「まあまわりではな、すごく大丈夫なのかとかな、人の住めるところなのか、そんな選択してほんとうに正しいのかとかいろいろな周りが騒いでるなんだか、放射能を持ってきて、どうだって言われれば、絶対、絶対といってもいい間違っているよなあ。でも仕方ないんだこれが。少しでもきれいな状態にしたいっていう」

【シーン6：中継】

日下部「えー再び飯舘村です。汚染土を巡るですね、場当たりの政府のやり方に対する憤り。これは長泥の人でもありますね、南相馬の人、二本松の人ほとんどが変わらないと思うんですね。ただ、長泥が一番違うのが、今、帰ることはできない。だから除染も行われていないし、荒れ放題になっている。だから住民の人たちは、広範囲の除染を条件にですね、再生事業を受けれたわけですね。まあ取材をしても、住民の人たちがですね、故郷の復興に向け、一縷の望みをかけた。いうことをひしひしと、感じました。」

膳場「長泥の人たちの苦悩というのは、日下部さん今も続いているんですね。」

日下部「先日ですね、長泥地区のシゲハラ区長と話をしたんですけども、こんなことを言っていました。本当に

復興のことを思ってくれる人は、100人いたら、そのうちの4、5人に過ぎない。8年間にわたって、復興の最先端に立ってきた人々の、それが実感なんですね。あとシゲハラさんこういうことも言っていましたね。現場レベルでは環境省の人ともですね、率直に腹を割ったですね、話し合いができる。だけどそれを東京の人たち、霞が関とかですね、永田町の人たちがしっかりと受け止めてくれない。それが悔しいし、悲しい。こういってました。長泥地区というのは、原発からですね、30キロはなれています。これまでもですね、東京電力から何の恩恵も受けてきたことはありません。そんな何の落ち度もない人たちが、どうして厳しい選択を迫られて、今もなお、悩み続けなければいけないのか。これは長泥の人たちだけではなくて、私たちにも突き付けられた問いだと私は思います。以上、飯舘村からでした。」

膳場「はい、再び、気仙沼です。汚染土に悩まされているのは、福島県の自治体だけではなく、東北から関東にかけて、80以上の自治体で今でも保管されています。」

金平「報道特集では、これらの自治体に再生利用を検討しているかアンケート調査を行いました。その結果から、何ができてきているのでしょうか。」

【シーン7：福島県外】

ナレ「福島県外の汚染土は現在、どのように管理されているのか。成田空港に近い、千葉県白井市では。市役所の敷地内で汚染土を管理している。普段このシャッターは閉じていて、一般の人は入れない。ここは公用車の駐車場。その一角で、ブルーシートに覆われているのが、汚染土だ。」

ナレ「道路の側溝や集合住宅の土が、プレコンバッグに入れられている。大型バッグ85袋分あり、定期的に放射線量を調べている。」

"記者「処分のめどは？」

千葉県白井市環境課 染谷 剛さん「は今のところ全くたっていない状態ですね。はい」

記者「再生利用については、どうお考えですか？」

染谷氏「これだけの量を再生して使うってのは、まあ現状難しいであろうという認識です。」

"ナレ「岩手県内の保育園では」

女性「ここにマンホールあるじゃないですか。ここですよ。」

ナレ「雨水が排水溝を除染した。汚染土は・・・」

"女性「この辺りに、埋めてあります。」

記者「目印みたいなものは、ないんですか。」

女性「ないです。何も打ってはいないです。」

ナレ「以前、畑として使っていた私有地に埋め立ててある。」

保育園の関係者「将来に私がね、私がいなくなった後は、ちゃんときちんと伝えておかないと、知らないで、何かに土地を活用したってなると、それは問題かなって思いますよね。」

ナレ「福島県外の汚染土は行き場のないまま、地上や地下、およそ2万8000箇所管理されている。その量は、東北、関東の7つの県で、合わせて、33万立方メートルに上る。小学校の25mプールで、900杯を超える量に相当する。」

ナレ「報道特集は、今年1月から2月にかけて、汚染土の再生利用に関するアンケート取材を行った。再生利用を検討しているか。今後検討するか、検討していないかをその理由とともに訪ねた。対象は、今も汚染土を管理する自治体だ。東北地方の福島・岩手・宮城。関東地方の茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉の83の自治体が回答し、東京都は汚染土の管理を行っていない。」

ナレ「アンケートの結果、再生利用を検討していると答えた自治体は一つもなかった。一方で再生利用を検討し

ていないと答えたのは、79の自治体だった。その理由については、

群馬・下仁田町「道路等の盛り土など、生活圏での再生利用は言語道断である。」

茨城県・日立町「放射性物質はあるかないかで判断する住民も少なくなく、より丁寧な説明を行ったとしても、理解を得ることは困難。」

"記者「今家が流されています。」

ナレ「4年前の9月に発生した豪雨被害を理由に挙げたのは、栃木県の鹿沼市だ。」

栃木・鹿沼市「関東東北豪雨で大きな被害を受けた本市としては、自然的な被害が懸念され、再生利用には、大いに不安を感じる。」"

ナレ「国の責任を強調する自治体もある。」

金平「えー福島県と隣接する宮城県の白石市に来ています。この白石市でも、除染土をどう扱うかについて、頭を悩ませているようです。」

ナレ「白石市の市営地に設置されたこの仮置き場は、できてから7年が経つという。」

金平「仮置き場ですけどね、そういうものができたというのは、どういうふうに思われますか？」

仮置き場の土地所有者「これ持ってっても喜ぶ人は誰もいないじゃないかと思うんですけどね。福島県だって嫌だべし、嫌なのはね、どこに持ってったって嫌になると思いますからね。」

ナレ「白石市の山田裕一市長は、こう憤る。」

山田市長「責任逃れ、責任の所在ですよ。一番大事なのは、そもそも国の方で責任をもつので、あくまでも一時保管という言葉です。それはまあ市町村の、そしてまあ地域と住民も信じたわけですよ。でその処理の仕方をどうするかって話しましては、それは国が責任をもってやるべきで、あると思いますし、今その責任をですね、市町村のほうに転嫁しているような、風にしか受け止められません。非常に困惑しておりますし、憤りもあります。」

ナレ「福島県に三方を囲まれた宮城県の丸森町。その地理的な近さから、大量の汚染土が発生し、仮置き場は町内に25か所もある。再生利用は検討していない。町は福島県外の自治体には認められていない中間貯蔵施設への搬入を許可してほしいと訴えている。」

宮城・丸森町 保科郷雄町長「国が、環境省が除染してもいいですよ。危険ですから除染してくださいって私らは取ってるわけですよ。結局は条例って言いますか、法律がそうした中で、それを盾にして、ここは宮城県ですからということになるわけですよ。被災地として、それをみとめてもらえないことはこれは本当に残念なことです。」

ナレ「汚染土をどこでどう処分するのか。アンケートからは、福島県外の自治体の多くが、今なお苦悩する姿が思い浮かぶ。」

【シーン8：福島県内その他】

ナレ「一方、福島県内を走る常磐自動車道では、日々、緑のゼッケンをつけたダンプカーが中間貯蔵施設へと汚染土を運ぶ。福島県内の汚染土は、県外全てを合わせた量の40倍以上にも上る。この量を減らしたい環境省は、福島県内への再生利用に期待を寄せている。」

ナレ「環境省で再生利用を進めてきた委員の一人、油井三和特命教授はこう訴える。」

福島工業高専 油井三和特命教授「地域住民にとっても、メリットはあるわけですよ。そこに産業も生まれるし、あの土木工事ですけども、いろんな土木工事も入ってくるし、人も雇えるし、プラスはあるわけですよ。現実的で安全なことをやらなければ、福島の復興がないんですよ。最後に大熊町と双葉町の中間貯蔵施設にすべてを押し付けるつもりですか。」

ナレ「中間貯蔵施設へと運ばれた汚染土は、2045年までに福島県外で最終処分されることが法律で定められている。だが、油井教授は、その実現は難しいと考えている。」

油井教授「栃木県にしろ、茨城にしろ、群馬にしろ、そういうところの反対運動を見ていれば、30年以内に県外で処分ってありえると思いますか。僕は基本的に受け入れてくれないと思いますよ。他人事なんですよ。結局、でも福島が立ち上がらなければ、除去土壌の問題は僕は解決しないと思いますよ。」

ナレ「今も、汚染土を管理する福島県の自治体は、再生利用について、いずれも検討していないと回答した。」

福島・田村市「すべて、中間貯蔵施設に搬出する約束で、除染作業や、仮置き場の確保をしてきた。」

ナレ「多くの自治体が、中間貯蔵施設にすべて運ぶとした。現在再生利用の反対運動が起きている南相馬市は」
福島・南相馬市「再生利用についての、法整備、使用場所、社会的受容性の高まりが整っていない。」

【シーン9：福島県外】

ナレ「一方、再生利用について、今後検討すると答えた自治体もある。埼玉・茨城・岩手にある4つの自治体だ。」
埼玉・三郷市「除去土壌の処分方法等について、現在環境省において、検討中です。その結果が明らかになったのち、再利用は処分について、検討する予定です。」

岩手・奥州市「道路など駐車場であれば、アスファルトで遮蔽されるため、安全性は確保されるという考えです。」

ナレ「再生利用を今後検討する答えた自治体でも、汚染土に苦慮する姿は共通している。」

金平「えー岩手県奥州市を流れる北上川にかかる橋の上に来ています。ちょっと寒いです。8年前の福島第一原発事故の後の、除染作業で生まれたいわゆる除染土の問題は、福島県以北のこの岩手県にまで、及んでいます。」

ナレ「奥州市は、除染が行われた自治体の中では、最北に位置する。市の中心部にある駒形神社。宮司の山下さんは、自ら重機を使い、土嚢袋300個分の汚染土を神社の裏手の林に埋めた。」

"山下氏「ここなんですけど、最初向こうによってたものを、誰も掘らないようにもう意思を乗せてしまいました。」

金平「どれぐらいの深さなんですか？どこまで」

山下氏「2メートルですね。」

ナレ「奥州市には現在、仮置き場は無く、除染現場での保管が続く。」

宮下さん「異様な石の並び方ですね。もうその時はこれで掘らないだろうってでここもあの、私が死んだら分からなくなります。100年間は掘らないでほしいなあと思います。」

【シーン10：中継】

膳場「えー、各地で汚染土を持て余してる現状を見ていただきましたが、いつ・どこで・どのように最終処分をするかという方針を国が具体的に示されない中、ご覧いただいたような汚染土の監理をいつまで続けるのか。危機感を覚えます。環境省は汚染土の再生利用を推進していますが、国民的な合意が形成されているかも疑問です。」

金平「汚染土を生み出すきっかけとなった福島第一原発に私はこれまでに計10回入りしましたがけれども、確実に言えることは事故がまだ収束していないということです。40年以上とも言われる廃炉作業によって、汚染土、放射性廃棄物、汚染水もまだまだで続けています。中間貯蔵施設に運ばれた汚染土は、2045年までに福島県外で最終処分されると法律で定められていますが、本当にそれが実現すると思っているのでしょうか。アンダーコントロールという聞こえの言いお題目ではなく、厳しい現実に関心向き合うべきではないでしょうか。」

【クロージング】

金平茂紀「去年、改定された文科省の放射線副読本から汚染という単語が消えたそうです。」

膳場貴子「うーん、でもそれこそが終わりの見えない課題、何ではないでしょうか。報道特集、それではまた。」

今回は二本立ての特集ではなく、一本の特集だった。

その分、特集の1テーマの時間が十分に取られていて、その中で福島県内や県外、様々な自治体の声を拾えて

いた点は放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点から高く評価できるものと言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

- ・特になし

検証者所感

- ・大阪でダブル選挙へ

国政では激しく対立する自公と立憲民主党などの野党だが、どうも大阪では事情が違うようだ。沖縄で維新を除く野党による「オール沖縄」が成立しているとすれば、大阪では自民党から公明党、立憲民主党、共産党まで含んだ非維新共闘が成り立ってでもいるかのような様子である。

日本有数の大都市圏で中央政界とは全く違う対立構造になっているが、今後、特集で取り上げられることを期待したい。